

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:11月13日(月)

会場:神杉コミュニティセンター

参加者数:21人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>酒屋町船所にあるうどん屋が立ち退きになった。河川を広くすると聞いたが、状況を教えてほしい。</p>	<p>国土交通省が、江の川を改修するため、用地買収し、工事を進めようとしている。西日本豪雨災害の時に、国道54号の一部が、江の川の増水によって冠水した。国道54号が通行できなくなると、日常生活に大きな影響が出てくる。車が往来できないことによって、物流や人の動きが止まる。そのため、国土交通大臣に対して、緊急的な改善要望を行い、ようやく事業化した。江の川上流域が特定都市河川に指定されたことにより、江の川上流域の無堤防箇所の解消や、船所地域の護岸改修、国道54号の道路改良など、スピード感を持って事業を実施できるようになった。治水対策については、いろいろな課題はあるが、優先的に河川工事がされつつある。12月末までに、水害を未然に防ぐための事業を具体的に実施していくためのスケジュールを盛り込んだ流域水害対策計画を立てる。今後、いろいろな改修事業が始まり、安全・安心につながっていくものと考えている。</p>	
<p>三次ワイナリーの横にある公園に、小学生の孫と遊びに行った。壊れた遊具や水たまりがあり、利用者の事故にもつながることから、市役所へ連絡をしたところ、修理費用が高いと言われていた。その後、現地に行ったが、修繕されていなかった。遊具の修理代が高いのであれば、撤去する。あるいは水たまりについては管理者がすぐに対応できるのではないかと。担当課は点検されているのか。事故があつてからでは遅いのではないかと。また、看板に管理者の連絡先が記載していないため、改善してほしい。子どもは大人が考えつかない遊びをするので対応してほしい。</p>	<p>みよしあそびの王国にある遊具の損壊については、これまでも指摘をいただいている。すぐに状況を調査したところ、壊れた遊具があり、危険な遊具には近寄れないように対応している。一度に全部を修繕することはできないため、優先順位をつけて計画的に修繕を行っていく。みよし運動公園一帯については、みよしあそびの王国も含めて、民間事業者へ指定管理に出している。市が直接管理をしているのではなく、施設管理を得意とする事業者へ委託している状況である。引き続き、委託業者ともしっかりと連携して、維持管理を行うとともに、子どもたちのけがを未然に防げるような体制にしていきたい。</p>	
<p>学校給食について、安全・安心という言葉が使われている。物価高騰により、高校の給食が提供できないなど、子どもたちが犠牲になっている。また、給食に使用する油や練物製品などには、人工添加物が多く使用されている。質を落とさず、安全・安心な給食を子どもたちに提供してほしい。</p>	<p>学校給食センターが9月に開所して、神杉地区にも配食している。安全・安心で、三枚らしい、おいしい給食のため、食材もできるだけ地元のものを活用するとともに、衛生管理基準を満たした施設を整備することができた。食材費の高騰など、苦勞して対応していかざるを得ない状況もあるが、市議会において、食材費への補助を認めていただき、今年の4月に遡って、補助できる体制が整った。どのような状況でも、全ての子どもたちに安全な給食を提供するために、給食センターに運営委員会を設置している。給食センター所長や栄養職員、そして学校長、PTAの保護者代表と一緒に、より良い給食をめざして話をしている。これからも、一人ひとりの子どもたちに対して、安心して給食を提供していくための取組を続けていきたい。給食センターにいる6名の栄養職員も協議を重ね、献立を工夫するなど、より良いものを提供するために取り組んでいる。今後も、安全・安心について徹底して取組を進めたい。</p>	
<p>市町村が合併して以降、市域が広がったため、市が市民の意見を集めて、市民に協力してもらう必要がある。市や市議会が判断をしなければならぬが、地域一体となって行動していけば、本市は元気になると思う。今は、自分の地域に利権を持って帰ろうという議員が多いように感じる。</p>	<p>・地域一体は、今後のキーワードになると思う。本市では、全国に先駆けて自治活動支援金を設けている。神杉地区では、いろいろな自治活動を通じて、自分たちでまちを元気にし、また人を呼び込んでいる。令和4年度には約210人の皆さんが本市に移住されてきた。ただし、社会増減で見れば、転出超過の状況である。</p> <p>・コロナ以降、東京に住まなくても、東京で働かなくても、地方に住んで都会の仕事ができる。あるいは自然豊かな場所で子育てができることが再認識された。東京一極集中の是正が、地域の活力につながることから、法律の整備や予算の確保をしてほしいと、国に対して常に提案している。国もいろいろな対策を講じているものの、東京一極集中は是正できていない。東京にある拠点の地方分散は、雇用の確保につながることから、継続的に取り組んでいく。</p> <p>・自治活動などでは、継続的に、行政と地域の皆さんとがともに取り組んでいくという機運醸成をすることが重要である。市議会からも、今後においては、協調や共創の取組が重要であるとの意見があり、限られた財源の中で、最小の経費で最大の効果を出せるような事業提案をしていきたい。今、市議会では、市民と対話をする機会が設けられているので、いろいろな話をしてもらいたい。また、様々な場面で、意見を出していただきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:11月13日(月)

会場:神杉コミュニティセンター

参加者数:21人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>藤山浩(一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長)さんの指導により、神杉地区の長所や短所などについて分析していただいている。神杉地区は、住民自治組織、小学校、保育所が近いので、相互に協力し合いながら、未来に向けた地域づくりを行っている。先般も、小学生とレゴブロックを活用したワークショップを行った。子どもたちは、未来につながるものを作ってくれた。これからの未来を担う若い人の考えを取り入れていく必要があることを認識した。今年も、ふれあい祭りなどの行事を進めてきたが、いいアイデアが出てこない。神杉地区に合った具体策についてアドバイスしてほしい。市域が広いので、神杉地区だけということは難しいとは思いますが、中心市街地の発展だけではなく、周辺地域が発展しなければ、本市は発展していくことはできないと思う。周辺地域にも目を向けてほしい。</p>	<p>持続可能な地域づくりのためには、市民や国民、世界における一人ひとりの意識が重要である。子どもたちにレゴブロックを活用したワークショップをしてもらい、子どもたちの発想を形にする取組はすばらしいと思う。</p>	
<p>市議会の中で、EBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング)という根拠に基づいた政策立案をされるという市長の答弁を聞いた。根拠に基づいた政策をしていただきたい。三次は高速道路が交差するなど立地条件がいいと言われているが、都会のように、いろいろな人に会うことや、講演会にも行くことは難しい。市主催により、年に1回・2回ほど講師を呼び、文化講演会を実施してほしい。ウクライナ情勢など外交防衛について聞きたい。</p>	<p>環境や教育といったいろいろな分野の講演会を市主催で実施しているが、外交や防衛をテーマにした講演会は実施できていない。これからの講演会の参考にさせていただく。</p>	
<p>一般廃棄物の焼却は法律で禁止されている。しかし、今の時期には、枯れ葉や田んぼの畦道の草、生活で出たごみの焼却などが散見される。些細なことであるが、地球の温暖化につながることから、市として、身近なところから啓発してほしい。</p>	<p>本市でも、カーボンニュートラルに向けた取組を進めている。高校生などが参画する「みよし未来環境会議」をつくり、自分たちが大人になった時のありたい地域や地球を考え、それを守るための議論をしていただいている。今後、市民の皆さんの意識を変革していくために、脱炭素条例も策定していく。本日、「みよし未来環境会議」のメンバーが、バイオ燃料を精製する企業に属している若者たちと、オンラインで意見交換をした。地球規模のことを考えて、取組を進めている子どもたちと意見交換をすることにより、本市の子どもたちの意識の変革につながってくると思う。様々な取組や講演会を実施することにより、子どもたちの意識も変わる可能性がある。市民の皆さんや子どもたちに、いろいろなことを提供していきたい。草や一般廃棄物を各家庭で燃やすことは、モラルの面で、非常に大きな課題である。いろいろな機会を通じて、意識の高揚を図っていきたい。</p>	
<p>神杉地区に営農センターがあり、農協も薬用作物栽培に取り組んでおられる。昨年まで、辻塚地域でも薬草栽培に取り組んできたが、草取りが非常に負担となった。中心的に取り組んでいるのは、高齢者であることから、水耕栽培にすることはできないか。栽培した薬草を加工するため、神杉地区に製薬工場ができればと思う。</p>	<p>産地化に取り組み始めて4年目を迎えるが、現在は、2品目を重点品目として各地域で試験栽培に取り組んでいただいている。漢方薬剤は種から発芽させていくが、生産現場を確認した際に、発芽したものか雑草かどうかの見分けがつかなかった。今、漢方薬材の原材料の栽培技術はまだ確立されていないため、東京農業大学などと連携して、本市に適した栽培などの研究を重ねている。栽培技術の確立にはもう少し時間がかかることから、見守っていただきたい。一方で、本市で栽培した漢方薬の原材料がほしいという製薬会社も出てきている。産地化に向けて確実に前進しており、三次でしかできない取組を重ね、農業振興を図っていく。いろいろな場面で、経過報告をさせていただきたい。</p>	
<p>行政の縦割りを改善してほしい。土木課に、松くい虫による倒木への対応をお願いしたところ、地域で草刈りをする時に松枯れの対応もしてほしい。倒木しないと市では対応できないなどと言われた。また、土砂崩れによって道路上に落ちた岩に車で衝突した時も、地権者に言うようにという対応であった。なぜ、事前に切っていただけなのか。危機管理上、交通の妨げになる前に対応してほしい。行政は失敗を恐れず、道筋を立てて、実行してほしい。</p>	<p>松くい虫の問題について、市管理の木であれば責任を持って管理しなければならぬ。一方で、民間の所有地であれば、所有者の許可がなければ伐採することができない。まずは、所有者に対応を促していく。ただし、今にも倒れそうな場合や、危険が及びそうな場合については、できる限り、未然に防ぐための取組を行っていく。官民のそれぞれの役割を基本原則にしなが、組織横断的に、機動的に対応できるような組織にしていきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:11月13日(月)

会場:神杉コミュニティセンター

参加者数:21人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>神杉学校区にある小学校は、今後、統合していく可能性はあるのか。</p>	<p>完全複式学級の小学校については、今後のあり方を一緒に協議していくという基本方針を定めている。今年度は、川西小学校が該当しており、基本方針に基づき、保護者の方に情報提供しながら協議を進めている。他にも協議をしている小学校がある。これから、人口減少や少子化が急激に進んでいくという想定もある中で、子ども一人ひとりにとって必要な学力がついていく環境とはどういふものなのか、常に見直しを持って進めていくことが大事である。現在、今後の教育のあり方に関する教育振興基本計画の策定を進めており、学校のあり方も大きな課題として入れていきたい。また、これから先のことを考えて、深掘りしていくように進めていきたい。市民の皆さんの声も聞かせていただきながら、今の取組について協議を重ねていく。引き続き、情報提供させていただきたい。</p>	
<p>芸備線サイクルトレインはどのような取組か。</p>	<p>今回の芸備線サイクルトレインは、芸備線の列車内に自転車を持ち込み、吉舎駅まで乗車して、そこから自転車で、庄原市の国営備北丘陵公園を通過して三次駅まで行き、芸備線に乗車して帰るというイベントである。近年、自転車に乗って楽しむ人が増えていることから、自転車という趣味と芸備線を組み合わせ、新たな利用者を掘り起こしていくためのトライアルである。現在、専用の袋に入れなければ、列車内に自転車を持ち込むことはできない。しかし、今回のサイクルトレインでは、専用の袋に入れなくても、自転車をゴムで固定し、自転車が倒れないような安全な状態で、自転車と人を一緒に列車で運ぶ。今後も、利用者を増やすため、サイクルトレイン以外にも、福塩線のワイン列車や、他の地域で運行された神楽列車など、公共交通と、文化や観光資源を結びつけた取組をいろいろと試していきたい。良い取組やアイデアがあれば教えてほしい。</p>	
<p>Uターンに関する補助金を活用するためには、三次市内の事業者を使わなければならない。引っ越しをして、家を改築するためには、市内の事業者では対応できないこともある。業者の範囲を広げることはいかか。また、補助金額を上げることはできないか。</p>	<p>Uターン者実家等改修補助金については、地域経済を活性化するために、地元業者の活用を要件にしている。</p>	
<p>昨年度から、神杉地区のまちづくりビジョンの本格的な反省や分析をしているが、農業関係は成果が出ていないと感じる。市道や休耕田などの草刈りをしているが、高齢化により、いつまでできるのか不安である。また、農地転用ができず、参入してくる企業もない。今、かなり行き詰まった状況である。今年は、地域の皆さんの総力を結集して、ふれあい祭りができた。毎年、子ども連れの家族が入ってくれば、神杉地区の人口はそれほど減らないと聞いた。市の空き家情報バンク制度もあるが、家具などの処分が課題となっている。以前は補助制度があった。処分費用に関する補助がなければ、空き家バンクに登録していただくようお願いができないことから、回答はいいので検討してほしい。</p>	<p>ご意見として受け止めさせていただく。</p>	